減災 NEWS

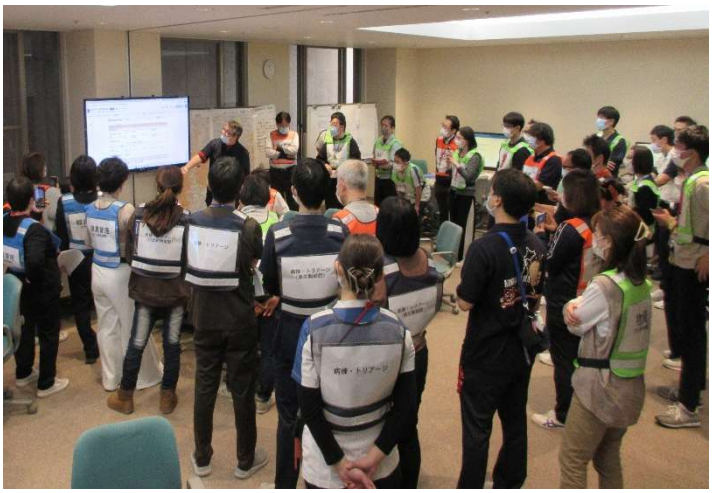
近畿大学奈良病院DMAT災害対策委員会

文責：加藤宏樹

vol. 28　2026. 6. 1

令和7年12月13日に当院の災害訓練を実施しました。前半は地震発生直後を想定し、災害対策本部の立ち上げおよび運用訓練を行いました。本部設営や役割分担の設定を通じて、情報の収集・整理・共有・対応を軸とした本部機能を確認するとともに、地域医療を支える災害拠点病院として、多数傷病者の受け入れと診療継続を両立できる体制であるかを検証しました。

災害対策本部は、本部長を中心に、職員管理、施設・用度、診療統括、記録連絡、外部調整などの部門に分かれ、さらに外部から応援に来た支援DMATを加えた体制としています。各部門はそれぞれの専門性に基づいた情報を集め、本部全体として機能するよう活動しています。院内各部署から提出される被災状況報告書や地域の情報をもとに、被害状況と人的・物的資源の把握を行い、診療の継続さらには多数傷病者受け入れの可否について本部長が決断をしました。



災害対策本部では、「現状分析と課題」シートを用いて、集約された情報を可視化し、全体で共有・評価を行いました。一旦全員が手を止めて集まり、現状と課題を再評価する仕組みを意図的に設けています。写真は、このシートをもとに現状を整理し、課題を明確化したうえで、今後の対応方針について二川医師が説明している場面です。災害時には情報が錯綜し、断片的な情報のままでは適切な意思決定は困難となります。本部において情報を一元化し、分析・評価を経て判断につなげるプロセスを維持することが、限られた医療資源の中で病院機能を維持しつつ、傷病者に対応するために不可欠です。

本訓練を通して、災害対策本部における情報の収集・整理・共有・対応をまとめながら活動していくことの重要性を再認識しました。災害時には状況が刻々と変化する中で、正確な現状把握と迅速な意思決定を継続することが求められます。当院は地域の医療を支える最後の砦として、いかなる状況においても病院機能を維持し、多数傷病者に対応できる体制を整えておく必要があります。今後も訓練を重ねることで本部機能の精度を高め、地域の皆様が安心して頼れる病院であり続けられるよう、病院全体で取り組んでいきます。

当院の災害看護専門看護師・DMATの辻谷看護師長が毎日新聞に取材を受けました！

近大奈良病院DMAT隊員　辻谷太さん（38）＝奈良市　災害対応、看護師の基礎に　／奈良

地域　奈良　関西

毎日新聞　2026/1/9　地方版　有料記事　923文字

辻谷太さん＝喜多瑞輝撮影

普段は近畿大学奈良病院（生駒市）の救急救命センターで看護師長だが、災害発生時は同院の「DMAT」（災害医療派遣チーム）の一員として、要請を受けた被災地で医療支援に取り組む。全国でも数少ない「災害看護専門看護師」の資格も取得。深い知見と経験を生かして活動する。

災害看護に強い関心があったわけではない。何気なく受けた研修で触れ、同期の看護師らと本格的に勉強を開始。2013年、同院DMATの創設メンバーとなった。

ご意見やご感想、ご質問等ございましたら、【患者さまの声】にお願いします。
（患者さまの声は、2階正面玄関前カウンター、再診受付機脇、各デイルームに設置しています。）